

# 多摩市キャンパス・マネジメント・アソシエーション設立準備会

## 第 2 回 CMA 設立準備会 議事録

---

### 1. 委員会概要

(1) 日時：令和 2 年 9 月 4 日（金）18：00～20:00

場所：多摩市役所 301 会議室

(2) 委員会次第

1 開会

2 議事

(1) CMA の全体プログラム（案）について

1) CMA の全体プログラム（案）の説明

2) PARK-PFI の要求水準書（案）に関する意見の説明

(2) 「各施設・団体におけるこれまでの取組と今後の計画の説明」と「CMA の実現に向けた問題・課題に関する意見交換」

3 今後の予定

4 閉会

## (2) 各施設・団体におけるこれまでの取組と今後の計画の説明

### a) 「市民」の巻き込み方

- ・ CMA の課題としては、(運営者側が提供するだけでなく、)「市民 (が主体的に参画)」としての要素を入れていかないと、多摩センター地区連絡協議会 (既存団体) との区別ができないのでは。
- ・ CMA に向けては、市民の声をどんな形で取り入れていくかが課題と考えている。
- ・ CMA の課題としては、市民目線を大切にすることが重要だと考える。
- ・ CMA の主役は市民と思うが、大学の学生は市民でなく、他地域の学生が多い。CMA の主体を多摩市内の市民とするか、市外のお客さんとなるか、分からないため、大学の立ち位置として難しい。

### b) 他施設との連携

- ・ CMA の課題は、施設間の連携。図書館の展示ブースも活用可能なので、大学講義との連携など、連携を図っていきたい。
- ・ 文化と学びのキャンパスということで、GLC は様々な施設と分野的に関わることができると思うが、その具体的な方法はまだ分からない。
- ・ CMA の課題としては、他大学との連携が、現状、相互授業の履修程度しかない。CMA の中で、大学の区別なく活動できると良い。
- ・ CMA の課題としては、多摩中央公園と多摩センター駅間の商業エリアで、上手に連携ができないか、と考えている。市民や大学の声も重要だが、地元企業も関わって、役に立てればと考えている。
- ・ 特殊な学群なので、CMA との関わり方は意見いただきながら考えていきたい。施設の開放や貸し出しなどは行っているため、連携できる可能性はあると考える。

### c) 多摩センター地区連絡協議会との差別化

- ・ CMA の課題としては、(運営者側が提供するだけでなく、)「市民 (が主体的に参画)」としての要素を入れていかないと、多摩センター地区連絡協議会との区別ができないのでは。

### d) 指定管理者・委託管理者の関わり方

- ・ 指定管理を行うパルテノン多摩のうち、4 階子どもエリアのみ市の直営で、市内 NPO に委託予定。そこと CMA の関わり方はどうすべきか、課題と捉えている。

### e) CMA と各施設・団体との関わり方

- ・ CMA について、連絡会としても森木会としても、CMA について理解しきれていないため、理解を深めていきたい。
- ・ CMA については、3 者連携の意見として出すべきか、理解できていない。

### f) 個別施設の展望・課題

#### ア パルテノン多摩

- ・ パルテノン多摩は、文化施設としての特色が強い施設だったが、今後はもっと市民の居場所となるような施設にしていきたいと考えている。

- ・ 子どもエリアは公園の流れとなる場所にある。文化施設の中の子供機能として、いかにして賑わい創出に寄与していくかが課題。
- ・ これまでパルテノン多摩の管理を行ってきた文化振興財団としての知見を活かしていきたいと考えている。多摩センター地区をはじめとした市内でのイベントなども地域と協力して進めていきたい。
- ・ CMA の課題としては、パルテノン多摩は、駅から見て CMA エリアの顔になる。利用者を引き込む一つの顔であり、どう引き込むかがパルテノン多摩だけでなく、CMA としても一つの課題と捉えている。

## イ 中央図書館

- ・ 中央図書館は、令和 5 年 5 月に開館予定（案）。場所は、多摩中央公園大池の右下（南側に向かって）に円弧状で建設予定。図書館本館は令和 5 年に閉館し、移転する予定。蔵書数も多く増やし、市民に本を読む喜びを感じてもらいたい。
- ・ 公園の同じ高さのフロアについては、賑わいのある空間とする想定。

## ウ GLC

- ・ ガーデンシティ多摩センターの子ども祭りやハロウィンイベントなどに、GLC として参加し、緑や自然体験のプログラムなどの活動を実施している。
- ・ グリーンボランティア連絡会は、CLC の廃止の話が出た際に、市民の有志により結成された団体で、3 者連携として管理運営に携わっている。
- ・ STEP 3 に関わる主体としては、連絡会でなくグリーンボランティア森木会（しんぼくかい）となると思われる。
- ・ 恵泉女学園大学は、緑を通じた人と人との関りを軸に活動している。

## エ 旧富澤家

- ・ 旧富澤家は、市に古民家 3 棟のうちの 1 棟。平成 5 年に移築。歴史的価値が高いという特色があり、明治天皇や皇族が休憩所として使っていたなど、歴史的なエピソードをもった建物。
- ・ 現状、開放展示エリアと、貸館としてしか使っていない。くつろぐ空間としてではない、学習の場としての空間要素が強く、課題と感じており、柔軟な使い方をしたい。公園改修にあわせて、飲食機能を求めることなどが可能か、模索中。
- ・ 現状外周園路からしかアプローチできず、広場側から視認性が良くない。存在に気付いてもらえない。単体で収益生むのは難しいが、公園の 1 施設としての位置付けを際立たせていきたい。

## オ 多摩センター地区近接大学・団体等

### ① 大妻女子大学

- ・ 大妻女子大学は、現在、社会学、心理学、福祉学の 3 つの専攻。
- ・ 子育て、障害者の問題、高齢者（支援が必要な高齢者／元気な高齢者：学びなおし）、防災に対して、社会学的、心理学的、福祉学的に関わっていくことができる。
- ・ 地域と関わる活動はこれまで細々としてきていたが、昨年からより大きく動き出している。

## ② 新都市

- ・ 新都市センター開発株式会社は、もともと公共性の強い会社であり、現在、地区連絡協議会の事務局などを行っている。
- ・ 多摩センター地区連絡協議会は、地元企業を中心に 40 社程度参加。昨今、事業部門が小さくなっており、来年以降 CMA 連携も活用しながら大きく戻していきたいと考えている。地区連絡協議会の中でも、新規の事業を模索中。

## ③ 桜美林大学

- ・ 桜美林大学は、町田市にある大学だが、アカデミーヒルズが 4 年前からキャンパスとなっている。最初は宿泊施設や研究所として利用しており、キャンパスとなった当初は、パイロット育成コースの全寮制キャンパスだったが（フライトオペレーションコース）、今年から学群（学部）に昇格し、4つのコースとなる。特殊な学群なので、全国から学生が集まっている。

## (3) CMA の実現に向けた問題・課題に関する意見交換

- ・ **【事務局】** 挙げられた主な課題は、
  - ①キャンパスとして、学生を含め帰属意識が必要。
  - ②CMA の位置付けを明確にすることが重要。
  - ③各主体の連携が必要。
  - ④市民の声を仕組みとしてどう取り入れるか。
  - ⑤今後、関係団体と具体的にどう連携していくか。

## g) 市民の声を仕組みとしてどう取り入れるか

- ・ **【副委員長】** ここまでで使われている「市民」という言葉の捉え方について、在住・在学・在勤も含めるのか、ここがずれてしまうとこの先の議論や考え方がずれてしまうので認識を統一したい。
- ・ → **【委員】** 近隣の八王子や町田から、多摩市の施設（図書館本館など）が好きで来ている人たちもいる。そういった市の施設をよく使う人たちは、どう取り込んでいくか。
- ・ → **【委員】** 市民以外も多摩市の公園や施設を利用する。もう少し広い範囲でもいいのでは。
- ・ → **【委員】** 今まで来ていなかった人たちも呼び込み、賑わいを創出していくことが CMA のもとの目的。「市民」に限定する必要はないのでは。
- ・ → **【委員】** 他市の同様の施設では利用者の 1~2 割が市民で、あとは市外利用者とのこと。いかにして市外の人を取り組むかが重要と考える。パルテノン多摩の子育てエリアも、市外の利用を想定している。
- ・ → **【委員】** 市としての CMA の最終的な目標から、関連して定義づけすべきでは。若年層の減少を課題として、賑わい創出を解決策とするのなら、市外も必要では。
- ・ → **【委員】** 市民サービスを充実させるといことは、市外の呼び込みにもつながる。こういった部分を目指して CMA を行うのなら、主体は少しずつずれていくと思う。時間的に、具体的にどのように進んでいくのか、イメージが持てない。
- ・ → **【委員長】** エリアの価値向上が最終目標なので、市外含めた全ての人を含めて賑わい創出を

想定している。市民に限定する必要はない。

- ・ →【委員】 地区連絡協議会としても、市内にこだわっていない。
  - ・ 【事務局】 ここまでの議論のまとめとして、一つは、サービス提供のターゲットを、市民に限定せず、広く考えるべきということ。市民と学生の関わり、子育て、高齢者、市外の方など、含めている方が多い。もう一つは、「賑わい」がどういう状態なのか、具体的なイメージが共有できていないということ。これから詰めていく必要がある。
- h) CMA の目標と役割について
- ・ 【委員】 CMA が「イベント」に偏らないでほしい。組織を作ってイベントを行って終わり、という風になりたくない。イベントを行う組織でなく、何らかの仕組みを作りたい。仕組みを動かした結果、イベントを行う、は良い。また、CMA の主体は、事務局が主体とならず、ゲスト側が主体となるようなものとしたい。
  - ・ →【事務局】 持続性を持たせるため、マネジメントを行っていくのが CMA の役割。
  - ・ →【委員】 定期的（毎週、月 1, 2 回）にこのエリアへ訪れる仕組みがあれば、リピーターが増え、常に賑わいがある状態になるのでは。「ゲストが主体」の具体的なイメージとしては、サークル活動のようなものを作り、その拠点を多摩センターに置くもの。拠点を提供して、ゲスト側が動いていくことが必要では。その核になるものは、パルテノン多摩でも「市民学芸員」など実施している。そのサークル活動を立ち上げる種をまいてあげることが、CMA の役割では。航空関係のサークル、天体のサークル、など、文化的な、特徴的な活動だと良い。それをつなげる役割が CMA。課題は、拠点の場所をどこに設定するか。
  - ・ →【委員】 対象とする多様な人の中に、元気な人だけでなく、子どもや高齢者なども入れたい。また、経済としての継続性も検討が必要。人々の経済活動も変わってきている中、公園に畑など作って料理して一緒に食べる、など、一緒に作っていくような、新しい仕組みを、お互いに連携する中で作っていったらよいと考える。
  - ・ →【委員】 資料 2 の 2 ページ目の STEP3 の中で、公園の中にある施設が主体なのか、大学と市民団体の位置付けがよく分からない。今回、GLC 運営者として参加しているので、市民団体ではない。このあたりを整理してほしい。
  - ・ →【委員長】 次回に向けた検討課題として、整理したい。